

## 一般社団法人 JAWA 日本アームレスリング連盟の基本方針と今後の取り組み

誰もが一度は学校で休み時間になると机の上で腕相撲に夢中になった思い出があるのではないかと思います。これに正式な国際ルールを設けて競技化させたアームレスリングは【何時でも何処でも誰でも、場所も費用も掛からずに楽しめるスポーツです。】を合言葉に1977年より活動を進めてまいりました。年齢層や学生・社会人・高齢者を問わず一つのテーブル上で勝ち負けを競い合う、楽しくエキサイティングさも兼ねそなえた競技です。JAWAにおきましては若い時期からアームレスリング競技に触れてもらえるように、全日本ジュニア選手権（15歳～21歳）、全国高校生大会を永年続けてきました。一つの事に目標を掲げ情熱を持ち努力を続け、結果を出す喜びを味わった時、それが【成功体験】に繋がります【何でもやれば出来るんだ！】と、ご本人の人生にも自信が湧き大いにプラスに成るのではないかと期待しております。その為にJAWAとしましては全国39都道府県の支部連盟傘下に公認ジムや公認道場を約80ヶ所設け選手の育成に励んでおります。これが功を奏し、世界チャンピオンに輝いた選手も輩出致しました。JAWAとしまして大事な事は、この姿勢を絶やす事なく続けて行く事と肝に命じております。途中で終わらせては意味が無いと、我々自ら尻を叩き、赤字の大会でも毎年開催し続けております。これからも公式戦開催だけに拘らず、地域のお祭りイベントや学園祭等にも我々が競技台を持参しレフリーも派遣して地域協力し、アームの輪を拡げて行きたいと考えております。また、全日本マスターズ選手権（40歳代部門・50歳代部門・60歳代部門・70歳代部門と枠を広げており、高齢になっても目標を持ち続け楽しんで戴ける事【生涯スポーツ】もJAWAのミッションとしております。事実、2023年の全日本マスターズ選手権大会の70歳代部門で、茨城県土浦市の84歳の村竹儀昭選手が史上最高齢で見事に優勝されました。今後のアームレスリングの大いなる可能性を感じ、心より感動する瞬間でした。「私はもう高齢者だから・・・」との言葉が村竹選手の前では出せなくなってしまう様なお手本の方です。

また今後の課題として、お体にハンディを持たれる方が座って対戦出来る【シットイングアームレスリング】の普及も今後の課題です。この為には足を短くした専用の台で、まずは体験して戴く活動を進めて行きたいと思っております。様々な方々にアームレスリングの楽しさを感じて欲しいと思っております。

世界選手権も1992年（千葉ポートアリーナ）・2000年（東京都墨田区立墨田体育館）・2005年（東京都墨田区立墨田体育館）と3度に渡り日本に於いて開催致しましたが、2005年の東京都大会を最後に開催出来ておりません。2026年に是非、東京都での開催に漕ぎ着けたいと願っております。そして途切れる事なく世界大会を定期的に日本で開催したいと考えております。【世界チャンピオン】これはアームレスリング界全ての選手の夢であり目標でもあります。我々JAWA理事会一同は一人でも多くの選手がその目標を達成出来る様に、人的・資金的サポートを今後も続けて行きたいと思っております。

一般社団法人 JAWA 日本アームレスリング連盟 役員一同